

昨年の9月に開校20周年記念の式典を行い、それを大きな節目としてこれまでの私たちの取り組み、子どもたちそして保護者の皆様と共に過ごした時間を振り返ることができました。

校訓を教育活動の基軸とし、その心を日々の生活の中で子どもたちと共に考えてくることができたことは大きな成果です。学習指導においては、学習の3本柱と位置付けている、授業、家庭学習、土曜講習の3つの中の特に「授業」に関しては、子どもたちの授業に臨む姿勢、教員の授業準備、そして既習内容の定着という形がしっかりと出来上がってきています。家庭学習と土曜講習についても一定の成果が上がっていますが、取り組みはまだ十分とは言えません。小学校生活の延長にある中学校への進学については、学校側（小学校・中学校）が子どもたちに身に付けてほしいと考える力がどういふものかということがなかなか明確に伝わっていないような印象を持ちます。そのために、子どもの中には結果的に負担ばかり多くなり、日々の生活が時間に追われ、楽しいと感じる余裕がなくなっていることもあるようです。学校と保護者の思いが同じ方向（全く同じということでもなくとも）を向かないことによるしわ寄せが子どもに出ることは避けなければならないことです。

さて、今年の年賀状に書いた私からのメッセージは右のようなものでした。

先日「こんとあき」という絵本を読む機会がありました。その中で、こんがあきに

「だいじょうぶ・だいじょうぶ」

と何度も言う場面がありました。

子どもたちにそういう声かけをたくさんしてあげることが出来る一年にしたいと思います。

あんしんできることば

「そうだね・だいじょうぶ」

げんきがでることば

「がんばっているね」

いわれてうれしいことば

じぶんでいえたらいいね

【片付け上手】

開校からしばらくの間、教室には児童一人に1つの棚が用意されていました。その1つの棚にはランドセルを入れることが難しかったので、その棚の上に置くこともありました。そのような不便を解消するために、現在のように窓側に新たに棚を設置しました。それによって荷物が棚に入りきらないということはなくなりましたが、個々の棚が増えた分、片付けや整理整頓が不得意な児童の様子がより目立つようになった気がします。身の回りのことに気をつけることが出来るようになるといいなと思うことがあります。

昨年の暮れにお亡くなりになった、渡辺和子先生（ノートルダム清心女子大学理事長）が講演の中でおっしゃっていましたが、ある学生が、試験が終わったときに自分が使った消しゴムのかすを集めて片付けたのを見て、その子の試験の評価にその行為を加点したというような内容のことがありました。今の学校では、正しい答えを導き出すことがよいこと、目標とされていて、その結果が点数に表されることになってしまいます。それも大切ですが、よい点数を取ることでその人が評価されることはあってはならないはずです。学校でもできるだけ一人ひとりの児童の姿を細かくかつ総合的に見ていくようにしますので、ご家庭でも大切にしたいことをお子さんと再度確認していただくとよいと思います。

校長室で遊んでいる子たちに、口うるさく、「ごみを拾いましょう」「椅子をもとにもどしましょう」と言ってしまう。でも、言われないとできない子はまた次のときも言われないとできないことが多いです。

片付け、掃除などは親の仕事という生活になっていないでしょうか。

【できることとできないこと どっちが多い？】

「計算もできない、漢字もできない、英語もできない。」「あなたはいったい何ができるの？」

これは子どものことを思うばかりに冷静さを失った親が子どもに言ってしまった言葉です。いえ、子どものことを思うばかりにというのは違って、親が自分のことを思うばかりに発してしまった言葉かもしれません。

できないことや不十分なことが目立つと親として焦りを覚えることは理解できます。でも、大切なことは子ども自身が自分の力で一歩ずつ前に進めるようになることです。子どもは少しずつですが自分の力でできることが増えていきます。

私は、誕生日カードに「この1年間でいろいろなことができるようになったでしょう」と書くことがあります。子どもたちのことをほんの少ししか知らない、分からない私ですが、これはどの子にもあてはまることであり、日々の生活ではその一部分を直接感じるができる機会もあります。これを当たり前と思うのか、喜びとして受けとめることができるかで、親の心にも、子どもの心にも大きな違いが生まれることでしょう。どちらがよいかを改めて言う必要はないですね。

子どもたちが自分の少しのがんばりでも認めてもらえて、それを喜び、支えとして努力することの楽しさを感じられるようになるといいです。